

学術研究会議数学部門の戦時研究班

木村 洋(Hiroshi KIMURA)

1. 目的

第二次世界大戦は、日本の純粋数学者が戦時研究(応用数学)に関与し、プロジェクト研究に従事したという点で、過去の戦争と質的に異なる点であった。日本数学史上に無視できない影響を後々まで及ぼした戦時研究問題であるが、その詳細は戦後 65 年を経過した現在も一部を除いて総括されていない。

戦時中の史料は大半が喪失しており、戦時研究の全貌を統一的に把握することは不可能だという制約条件はあるにせよ、「その折の話の詳細は、現在なお現役の関係者も多数おられるので、軽々しく公表できない」ということで前世紀には記述できなかったようなことが“当事者全員の物故”で可能となったことも事実である。

本論文は、日本学術会議の前身たる学術研究会議の、自然科学部門の戦時研究班中の数理科学カテゴリーを論じる。学術研究会議の戦時研究班は、陸海軍から技術士官や文官が参加する事例はあったが、文部省所管であるから、成果は基本的に機密ではなく、研究班の人選も通常は民間人研究者側のイニシアチブのもとでなされた。筆者は、先行・類似研究では未参照の、昭和 19 年度の学術研究会議における戦時研究班の補助金配分リスト、文部省科学局「昭和十九年度 動員下ニ於ケル重要研究課題 秘」を利用する。

数学界は過去に前例の無い多額の研究費を支弁され、他分野の研究者からの期待も集まったが、得られた成果は他分野に比較しても多くは無かったことが明らかである。その理由は逐次論証してゆく。

尚、本論文は数学の学部生程度の知識があれば、専門を問わず簡単に読みこなせる内容構成となっている。

2. 時代背景

1940年4月に科学動員実施計画要綱が閣議決定され、学術研究会議は戦時体制下での科学研究動員のために度々改組された。1943年8月には、科学研究の緊急整備方策要綱が閣議決定される。1943年11月以降、学術研究会議に戦時研究班が200余り設置され、1945年1月16日には、学術研究会議官制改革に伴う研究班再編がなされた。この改革は、1944年9月に設置された陸海軍技術運用委員会との緊密一体化による戦時科学研究の結集を意図したものである。

3. 学術研究会議における数理科学カテゴリーの研究班

以下に、1944年と1945年1月における数理科学カテゴリーの研究班組織と研究内容を列記する。「昭和十九年度 動員下ニ於ケル重要研究課題 秘」の正確な作成日時は不明だが、1944年1月31日に森本清吾が第9研究班員になったという記録が存在するので、同日以降という結論が得られる。

表1. 1944年度の学術研究会議戦時研究班の数理科学カテゴリー¹⁾

全国的班組織			
番号 6	班名 数理統計學	班長 北川敏男	
研究題目	研究機関	代表研究担当者	19 年度配当研究

			費
數理計画法	東大理 東大医 九大理 陸軍予士	河田龍夫 増山元三郎 北川敏男 成実清松	6000 6000 6000 4000
統計原理	東大理 東大医 京大理 東北大理 九大理 九大工 北大理 阪大理 名大理 東京文理大 東京高師 京城大理工 広島工專 中央氣 陸軍豫士 電氣試 芝浦電氣	掛谷宗一 増山元三郎 園正造 淡中忠郎 北川敏男 熊谷才蔵 稲葉栄治 角谷静夫 伊藤清 河田敬義 佐藤良一郎 宇野利雄 藤吉正之進 小河原正巳 成実清松 阪元平八 石田保士	4000 1000 2500 1500 2000 1000 1000 1000 1000 1000 1000 1000 1000 1000 1000 1000 1000
統計數値表並ニ特殊函數表ノ作成及 整備	東大医 九大理 陸軍豫士	増山元三郎 北川敏男 成実清松	1000 30000 5000
番号 7	班名 應用解析	班長 園正造	
研究題目	研究機関	代表研究担当者	19 年度配当研究 費
應用微分方程式	東大理 京大理 東北大理 東北大理 九大理 阪大理 名大理 広文理大	中野秀五郎 松本敏三 藤原松三郎 泉信一 福原満洲雄 清水辰次郎 吉田耕作 前田文友	1500 2700 1200 1200 2400 3900 1500 1200

	京城大理工	宇野利雄	1200
等角寫像	東大理 東北大理 北大理 名大理 東京高師	辻 正次 岡田良知 功力金二郎 能代清 小林善一	4000 2000 2000 1500 1200
代数解析	東大理 京大理 北大理 阪大理 名大理 東京文理大 広文理大 三高 陸士豫士	末綱恕一 園正造 守屋美賀雄 正田建次郎 中山正 菅原正夫 森新治郎 秋月康夫 成実清松	3000 2500 1200 1300 1500 1200 1200 1200 1200
番号 8	班名 應用幾何	班長 窪田忠彦	
研究題目	研究機関	代表研究担当者	19 年度配当研究費
幾何光学	京大理 阪大理 広文理大 広高師 日本光學	蟹谷乗養 寺阪英孝 岩付寅之助 柴田隆史 山下千歳	1200 1600 1200 600
齒車及工作機械/幾何學的研究	東大理 東北大理 九大理 北大理 広文理大 広島高 物理學校 陸士豫士 中島飛行	矢野健太郎 窪田忠彦 本部均 河口商次 森永覚太郎 細川藤右エ門 平川淳康 市田朝次郎 堀内義和	600 4700 1000 2000 800 800 2000 500
測量及照準	東北大理 北大理 阪大理 広文理大	窪田忠彦 河口商次 寺阪英孝 岩付寅之助	1000 2000 2500 3000